

6 アクロシティ自治会

(荒川区)

構成世帯数：489 世帯（令和元年 5 月末現在）

興味の湧く企画で自治会活動に関心を持つ住民を増やす

地域力の向上へ「隅田川と親しむ活動」を展開

●ポイント

- ・ 開発から 30 年以上を経過し、コミュニティは醸成されたが住民の交替により新規加入が課題。
- ・ イベントの開催と隅田川を特集した「自治会ニュース」の全戸配布で新規加入を促進。
- ・ コミュニティの強化へ、住民を主体とした新たなサークル活動に期待。

マンションの竣工から 30 年以上が過ぎ、コミュニティが育つ

アクロシティは、隅田川沿いの約 4 万 1000 m²の敷地に超高層棟・高層棟・低層棟の建物が建設され、総戸数 662 戸のマンションとなっている。アクロシティ自治会は、東日本大震災を機に平成 23 年（2011 年）11 月 20 日に発足。歴史は浅いが、それまで地元の南千住六丁目日本町会に所属していたことから、素盞雄（スサノオ）神社の祭りなどで地域との交流も盛んに行われている。居住者には、マンションが開発されて近隣から入居した人もいるが、全国から履歴も職業も異なる多様な人たちが集まっている。

中には、阪神・淡路大震災の経験者もいて、防災対策には力を入れている。ただし、発災時に実際に対応できるようにするためには繰り返し訓練が必要というのが自治会の考えで、「訓練を繰り返して、助け合いの意識を高めていくことが課題と思う。マンションの建物は人工地盤に建てられ、隅田川は増水の際に荒川との水門が閉じられることになっているが、水害については考えていく必要がある」とアクロシティ自治会会長は説明する。

マンションでは、それまで関わりのない人たちが集まるため、交流が進みにくい面がある。アクロシティでも最初 5～6 年は住民同士の交流が難しかったが、平成 2 年（1990 年）の竣工から 30 年以上が経過し、今はコミュニティが育っている。

「居住者が入れ替わっていく中で、一度外に出た子供世代が孫を連れて戻って来る例が何戸か出ている」と副会長は語る。当初、越してきた人たちは新住民だったが、そこで生まれ育った子供たちが大人になり、社会人として活躍する段階に入っている。そうした新世代には、アクロシティが「ふる里」となっている。新しく誕生したまちが歴史を刻み、ふる里化する。そこには、全国各地から人が集まって形成されてきた東京の 1 つの姿がある。

毎年 5～6%の住民が入れ替わり、自治会への新規加入活動が不可欠

アクロシティでは、毎年、5～6%の住民が入れ替わっている。「入れ替わりがあるので全体として高齢

化していくことはない」(会長)とのことだが、地域の力を維持していくには、加入世帯の維持がやはり欠かせない。自治体の加入世帯は 489 戸、未加入世帯は約 200 戸で加入率は約 7 割と高いものの、新たに入居した人にはその都度自治会への加入をお願いしているという。

それでも加入に関心を示さない人たちがいることについて、「町会の活動は年配の人がやるものというイメージがあるのではないか」(会長)とみる。「若い人たちも少しずつ入ってくれるが、自治会活動で中心になって動く担い手が欲しい。役員が高齢化しているので、次の体制を考えていく必要がある」と危機感を持つ。次の世代にバトンを渡す時期を迎えつつある。

自治会では、多くの住民に参加意識を持ってもらえるように、どのような活動をしてほしいかアンケートをして聞いている。役員として活動できるかどうか質問しており、時々、協力者が現れるという。

隅田川をテーマとしたワークショップで住民の交流が深まる

東京都の「地域の底力発展事業助成」を利用した事業では、すぐ近くを流れる隅田川について豊かな自然や水害、文化、歴史などを知らない住民が少なくないことから、「隅田川と親しむ活動を通じた地域力の向上」をテーマにし令和元年度(2019 年度)の活動を展開した。

内容は、①水の安全水泳教室(スパック de 健康まつり)②隅田川と親しむ会(水辺遊びと災害への備え)③隅田川に親しむ春祭り④隅田川を特集した自治会ニュースの発行の 4 項目。このうち、令和 2 年(2020 年)3 月 1 日に開催を予定していた「隅田川に親しむ春祭り」はコロナ禍の影響により残念ながら中止となったが、その他の活動は実施できた。

「水の安全水泳教室」は、敷地内のスポーツ施設「スパック(SPAC)」のプールで、ロンドンオリンピックに出場した選手を講師に、小学生を対象に水泳教室を開催し、約 200 人が参加。子供と保護者に安全に水に親しむための講習などを行った。

「隅田川と親しむ会」は、「隅田川で遊んだ記憶を語る」と「水辺のすこやかさを測る」の 2 つのワークショップを敷地内の集会室「プライムハウス」を会場に開催。40 人が参加して簡易水質キットによる水質検査などを実施した。隅田川に理解を深めるだけでなく、参加者同士の情報交換が活発に進み、交流を深める機会にもなった。

自治会ニュースの発行では、「隅田川と親しむ」をテーマに記事を作り、未加入者を含む全世帯に配布。地域の話題、防災や安全、オリンピック・パラリンピックに向けた理解などに関心が深まり、自治会活動に興味を持つ住民が増えたという。

アクロシティ自治会では、令和元年度(2019 年度)に 20 世帯が新規に加入したが、「自治会ニュースなどで町会の活動を知り興味を持ってくれたものと思う」(副会長)とのことだ。

サークル活動を拡大へ。住民に使いやすい自治会にしていきたい

今後の展開として、「サークル活動を拡大させたい」と副会長は言う。自治会では、イベントとは別に、役員の企画によりコーラスやゴルフ、卓球などのサークル活動に力を入れている。それをさらに、役員ではない人にも企画してもらい、サークル活動を増やしていく。自治会活動を通じてわくわくする楽しさや住民同士の交流を広げていくなかで、加入者も増えていくという考え方だ。

そうして常日頃培った人のつながりが、災害の発生時などにも機能を発揮することになる。「住んでいる人たちに、自治会を上手に使ってほしい。皆さんに使いやすい自治会にしていきたい」と副会長は抱負を述べる。一般住民の企画によるサークル活動は募集をし始めたところで、成果が出るのはこれからだ。



高層建築、中層建築、低層建築などから構成されるアクロシティ。竣工から約 30 年を過ぎた



未加入者を含む全世帯に配布している「自治会ニュース」